SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	ヤハンパット 美佳	学校名	狭山市立笹井小学校
実施学年	小学校4年生	教　科	国語
単元名	伝えよう、わたしの一冊 ～一つの花～		

≪学びを深めたいポイント≫

第1次では、これまでの物語文の学習を振り返りながら、「戦争」を取り扱う物語であることを確認する。そして、単元のゴールとして「伝えよう、わたしの一冊」に取り組む。紹介する本は、この単元の始まる前より意識づけとして、並行読書として紹介し、その中から選ぶようにする。

同時に、この単元の言語活動である「伝えよう、わたしの一冊」について教師の見本を紹介する。この学習を通して紹介文を書くために、本単元の「たいせつ」を意識することを伝えていく。本単元の「たいせつ」とは、「物語を読むときには、次の言葉（題名・くり返し出てくる言葉・会話文・重要な場面に出てくる言葉）に着目することで、作者の思いにせまることができる」というものである。（教科書の巻末に掲載）

第2次では、実際に「一つの花」を読み、物語の構成を捉えていく。グループごとでの話合い活動を毎時間取り入れ、役割分担（司会）を交代することで、話合い活動に慣れさせるようにする。全文シートという文章ごとに番号をふったプリントを用いる。番号をふることで、「～番のところには…と書いてある」とすぐにどの文章かが分かるようにする。同時に、この話合いにおいては、タブレットを活用（下記参照）し、素早く意見が共有できるようにする。第2次では「たいせつ」を意識した指導を行い、特別な言葉（＝一つの～、一つだけ）の意味の変化をたどっていく。そして、着目の仕方を学んでいくとともに、自分が選んだ本の特別な言葉が見つけられるよう支援する。選んだ本を並行的に読んでいくことで、第3次の紹介文作成の活動を取り組みやすくしていく。

第3次では、これまでの学習を生かして、紹介文を作成する活動を行う。児童が自分のこととして捉えやすいように、「クラスの友達やおうちの人に伝える」という視点で取り組ませる。完成までの過程では第2次までの学習を想起させたり、友達と見合ったりする活動を取り入れる。しかし、紹介文をどのように書けばよいか、手が止まってしまう児童がいることも考えられる。支援の手立てとして、穴埋め形式の用紙を用意しておくことで、スムーズに課題に取り組めるようにする。全体の事後指導としては、児童が選んだ物語と紹介文をセットで図書室前や廊下に掲示し、取り組んでよかったという達成感を味わわせたい。

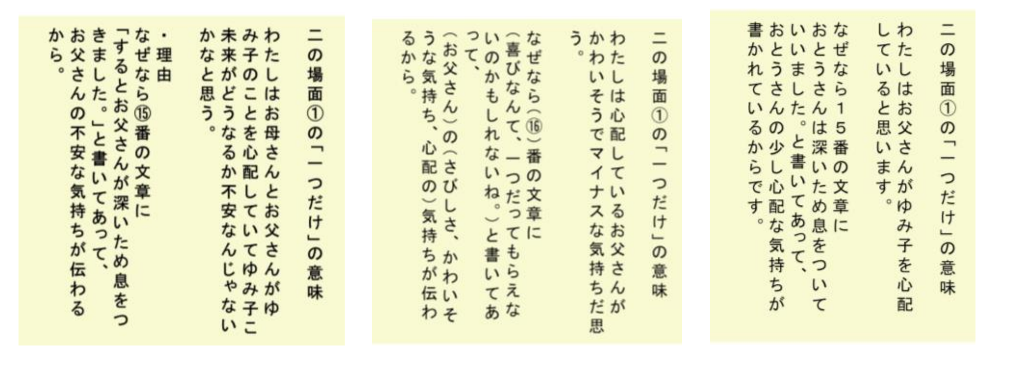
≪SKYMENU 活用のポイント≫

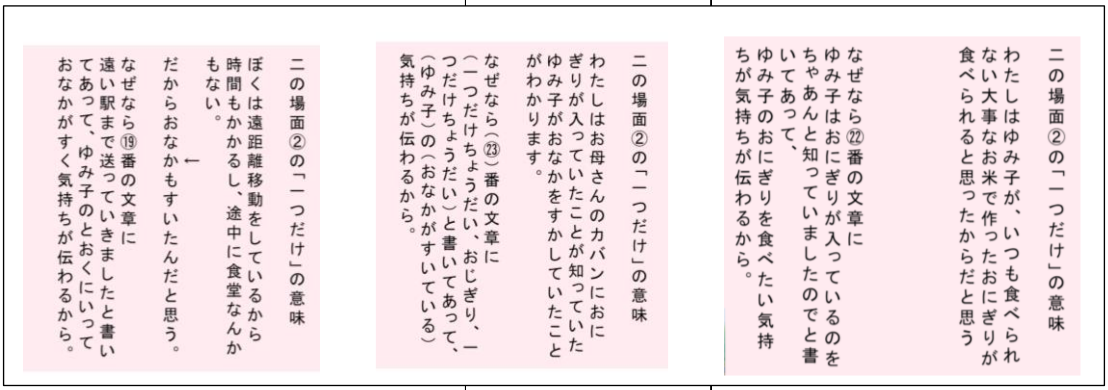
本文中の「一つだけ」というキーワードの意味は段落ごとに変わってくる。食糧が十分にないことを表す「一つだけ」。多くのものが一つしかなく、心配な気持ちを表すような「一つだけ」。お父さんからゆみ子へのさみしさや悲しさ、この先も強く生きてほしいという願いなど、様々な気持ちを表す「一つだけ」。

これらの変化をたどり、児童同士で素早く意見を交わすための手段として、スカイメニューの中の発表ノートを用いることとした。グループワークで作業することで、互いの意見を交流し、参考にすることが容易となる。

今回だけでなく、年間を通して国語の物語では「全文シート」を用いた。これを使うことによって、必要な文章を打ち直す必要がなく、話し合いに集中する時間を多く取ることができる。

≪実践内容≫

次	時	主な学習活動	学習内容	○指導上の留意点　・評価
1	1	①「伝えよう、私の一冊」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ②「戦争」や「平和」について知っていることを出し合う。 ③初発の感想を交流し、物語の構成を整理する。 学習のゴールと、学習の流れをつかもう。	○学習の見通し ○言語活動の内容	○教師が作成した紹介文を見本として見せる。 ○ウクライナでの戦争のことなどを取りあげ、身近な話題として感じられるようにする。 ・学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。【思】（発言・記述） ・物語の構成要素を読み取り、ワークシートに整理している。（ワークシート）
2	2	登場人物・出来事・キーワード（一つだけ…から始まる言葉）などを手がかりに場面分けをし、物語のあらすじをまとめる。 場面分けをし、あらすじをまとめよう。	○時代背景（設定） ○場面分けの仕方 ○あらすじのまとめ方 ○振り返りの仕方	○特別な言葉に着目して読ませるようにする。 ・ゆみ子の口癖（一つだけ…）が、戦時中の食糧事情を背景に生まれたものであることを読み取っている。【思】（記述・発言）
	3	2の場面①を読み、キーワードや会話・行動から、登場人物の性格や気持ちについて考え、話し合う。 2の場面①で使われている「一つだけ」の意味には、だれのどんな気持ちがこめられているか考えよう。  二の場面①の「一つだけ」の意味 わたしはお父さんがゆみ子を心配していると思います。 なぜなら１５番の文章におとうさんは深いため息をついていいました。と書いてあって、おとうさんの少し心配な気持ちが書かれているからです。 二の場面①の「一つだけ」の意味 わたしは心配しているお父さんがかわいそうでマイナスな気持ちだ思う。 なぜなら（⑯）番の文章に（喜びなんて、一つだってもらえないのかもしれないね。）と書いてあって、（お父さん）の（さびしさ、かわいそうな気持ち、心配の）気持ちが伝わるから。 二の場面①の「一つだけ」の意味 わたしはお母さんとお父さんがゆみ子のことを心配していてゆみ子こ未来がどうなるか不安なんじゃないかなと思う。 ・理由 なぜなら⑮番の文章に「するとお父さんが深いため息をつきました。」と書いてあって、お父さんの不安な気持ちが伝わるから。	○話し合いの仕方 ○お父さんのゆみ子への思い	○特別な言葉（一つだけのいも…）に着目して読ませるようにする。 ・多くのものが「一つしかない」とゆみ子を心配するお父さんの気持ちを読み取っている。【思】（記述・発言）
	4	2の場面②を読み、戦地に出向くお父さんを見送る家族の状況と思いを読み取る。 2の場面②で使われている「一つだけ」の意味には、だれのどんな気持ちがこめられているか考えよう。	○時代背景（設定） ○お父さんのゆみ子への思い	○特別な言葉（一つだけちょうだい）に着目して読ませるようにする。 ・まるで戦争になんか行く人でないかのようにしているお父さんの気持ちを読み取っている。【思】（記述・発言）



二の場面②の「一つだけ」の意味

わたしはゆみ子が、いつも食べられない大事なお米で作ったおにぎりが食べられると思ったからだと思う

なぜなら㉒番の文章に
ゆみ子はおにぎりが入っているのをちゃあんと知っていましたのでと書いてあって、
ゆみ子のおにぎりを食べたい気持ちが気持ちが伝わるから。

二の場面②の「一つだけ」の意味

わたしはお母さんのカバンにおにぎりが入っていたことが知っていたゆみ子がおなかをすかしていたことがわかります。

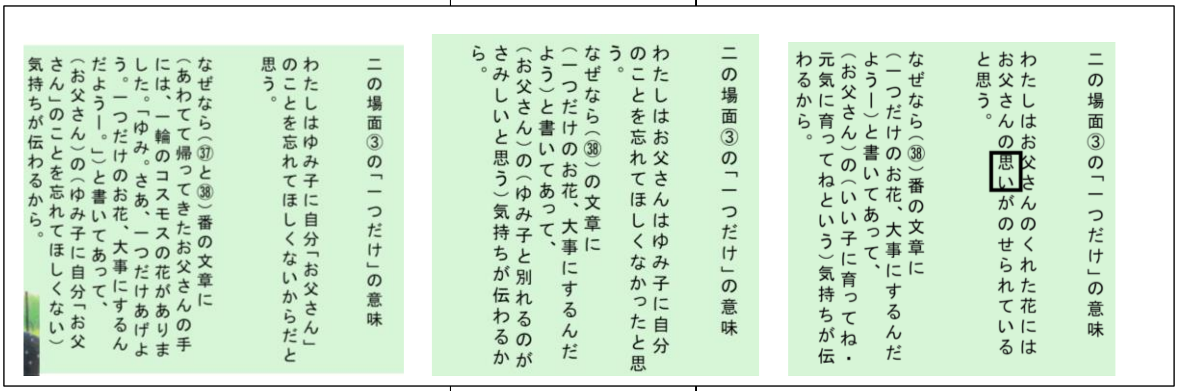
なぜなら（㉓）番の文章に
（一つだけちょうだい、おじぎり、一つだけちょうだい）と書いてあって、
（ゆみ子）の（おなかがすいている）気持ちが伝わるから。

二の場面②の「一つだけ」の意味

ぼくは遠距離移動をしているから時間もかかるし、途中に食堂なんかもない。
だからおなかもすいたんだと思う。

なぜなら⑲番の文章に
遠い駅まで送っていきましたと書いてあって、ゆみ子のとおくにいっておなかがすく気持ちが伝わるから。

5	2の場面③を読み、キーワードや会話・行動からお父さんの思い、ゆみ子への願いを読み取る。 2の場面③で使われている「一つだけ」の意味には、だれのどんな気持ちがこめられているか考えよう。	○一つの花に込められたお父さんの思い	○特別な言葉（一つだけのお花…）に着目して読ませるようにする。 ・一輪のコスモスに込められたお父さんの思いを読み取っている。【思】（記述・発言）



二の場面③の「一つだけ」の意味

わたしはお父さんのくれた花にはお父さんの思いがのせられていると思う。

なぜなら（㊳）番の文章に
（一つだけのお花、大事にするんだよう―）と書いてあって、
（お父さん）の（いい子に育ってね・元気に育ってねという）気持ちが伝わるから。

二の場面③の「一つだけ」の意味

わたしはお父さんはゆみ子に自分のことを忘れてほしくなかったと思う。

なぜなら（㊳）の文章に
（一つだけのお花、大事にするんだよう）と書いてあって、
（お父さん）の（ゆみ子と別れるのがさみしいと思う）気持ちが伝わるから。

二の場面③の「一つだけ」の意味

わたしはゆみ子に自分「お父さん」のことを忘れてほしくないからだと思う。

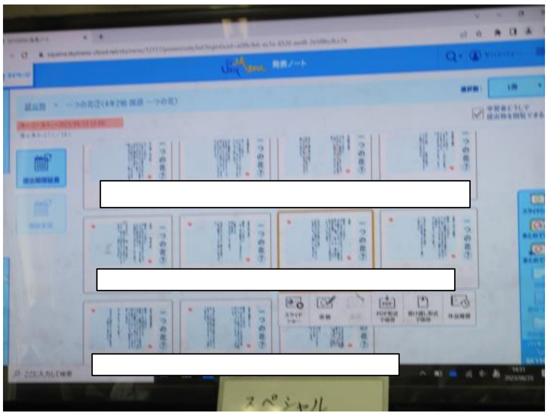
なぜなら（㊲と㊳）番の文章に
（あわてて帰ってきたお父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよう―。」）と書いてあって、
（お父さん）の（ゆみ子に自分「お父さん」のことを忘れてほしくない）気持ちが伝わるから。

6	3の場面を読み、十年後のゆみ子の暮らしの様子を10年前と比べて読み取る。 3の場面を読み、「一つだけ…」という言葉が出てこない理由を考えよう。	○生活の様子を表す言葉	○特別な言葉（一つだけ…）がないことに着目して読ませるようにする。 ・戦時中と10年後のゆみ子の暮らしの様子を比較して読んでいる。【思】（記述・発言）
7	題名「一つの花」の意味について考える。 題名「一つの花」には、だれのどんな気持ちがこめられているか、考えたことを交流しよう。	○交流の仕方 ○「たいせつ」について	○特別な言葉（一つの花）に着目して読ませるようにする。 ・学習したことを生かして、物語の結末がもつ意味、題名の意味を考えている。【思】（記述・発言）

題名「一つの花」に
わたしは戦争には花は必要ないけど、残っているのをゆみ子にあげたのはお父さんの大きく成長してほしい気持ち
がこめられていると思う。
なぜなら(㊶)番の文章に
(一つの花を見つめながら)と書いてあるから。

題名「一つの花」に
わたしは、今西祐行(いまにしすけゆき)さんの「一つだけの大切さを知ってほしい気持ちがこめられていると思う。
なぜなら(㊱)番の文章に
(「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけの花大事にするんだよう—)と書いてあるから。

題名「一つの花」に
わたしは今西さんが「1つだけ」というキーワードをいろいろな人に伝えたいんだと思います。
なぜなら㊳番の文章に
「ゆみさあ1つだけあげよう1つだけのお花だいじにするんだよ」
と書いてあって今西さんが1つを大事にするんだよといっているような気がしたからです。



3	8・9	「平和」について書かれた物語の紹介文を書く。 自分が選んだ本の紹介文を書こう。	○紹介文を書くときの視点 ○紹介文の型	○自分の選んだ物語に出てくる特別な言葉に着目して紹介文を書くようにする。 ・学習したことを生かして進んで紹介文にまとめようとする。【主】（紹介文）
	10	紹介文を伝え合い、この学習を振り返る。 選んだ本を友達に紹介しよう。	○紹介文の交流の仕方	○物語を読むときは「たいせつ」に書かれていることを再度確認するとより深く読めるということを伝える。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを紹介文に書き表している。【思②】（紹介文）

≪実践を振り返って≫

実践を通して、課題として次の点が挙げられる。この時期（6月頃）、まだキーボード入力の速度や考えをまとめる時間には個人差があり、早く終わる児童とそうでない児童がいた。担任の意図としては、そうした時間差があるものの、話し合いの時間において「初めて友達の意見に触れる方がよい」と考えていた。そのため、早めに提出したとしても児童同士の意見を互いに閲覧できる設定にしていなかった。しかし、研究協議会では、早めに発表ノートを提出した児童同士で閲覧できる設定の方がよいのではという意見が出た。そうすることで、一部の児童は友達の意見に触れた後で話し合いに参加することができ、より活発な意見交流ができるのではないかということだった。特に、個別の支援を要する児童にとっては、教師からの声掛けをもらいつつ、友達の意見を参考にして自分の意見を持てるような支援の方法もある。

一方で、成果として次の点が挙げられる。プリントに書き込んだものを発表して共有するよりも、友達の意見を早く知ることができる。慣れてくるとグループワークにすぐに取り組むことができた。また、教師側でも一人一人が意見を入力している最中に、どんな意見が入力されているのかを把握することができる。そのため、全体での共有時間にて予め指名する児童を決めておくことができる。「どうしてこの文からそう思った？」「みんなはどのように思う？」「似たような意見の子もいたね」と考えを深めたり、つなげたりすることにより時間を割けるようになった。